

# 輸血・細胞治療部

## 1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	1 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	8 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	10 人	

## 2 教員の異動状況

竹下 明裕（病院教授）（24. 4. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	17.15	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	10 編	(10 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- 藤原晴美, 渡邊弘子, 山田千亜希, 大友直樹, 押田眞知子, 友田豊, 万木 紀美子, 星順隆, 高橋孝喜, 前川平, 大戸齊, 竹下明裕\* : 日本の大学病院における輸血医学教育の現状と問題点 平成 21 年度大学病院輸血部会議「教育に関する調査報告」(2) 日本輸血細胞治療学会誌 58(3)492-499, 2012.

2. 山田千亜希, 藤原晴美, 渡邊弘子, 古牧宏啓, 牧明日加, 芝田大樹, 永井聖也, 石塚恵子, 金子誠, 朝比奈彩, 竹下明裕 : 輸血後劇症肝炎の経験から得られた感染症検査の改善点と課題. 日本輸血細胞治療学会誌 59(1), 67-72, 2013.

3. Takeshita A. Efficacy and resistance of gemtuzumab ozogamicin for acute myeloid leukemia. Int J Hematol 97, doi, 10.1007/s12185-013-1365-1, 2013.

インパクトファクターの小計 [ 1.268 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Ono T, Takeshita A\*, Kishimoto Y, Kiyoi H, Okada M, Yamauchi T, Tsuzuki M, Horikawa K, Matsuda M, Shinagawa K, Monma F, Ohtake S, Nakaseko C, Takahashi M, Kimura Y, Iwanaga M, Asou N, Naoe T; Japan Adult Leukemia Study Group. : Long-term outcome and prognostic factors of elderly patients with acute promyelocytic leukemia. Cancer Sci. 103(11):1974-1978, 2012.

インパクトファクターの小計 [ 2.325 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Yanada M, Tsuzuki M, Fujita H, Fujimaki K, Fujisawa S, Sunami K, Taniwaki M, Ohwada A, Tsuboi K, Maeda A, Takeshita A, Ohtake S, Miyazaki Y, Atsuta Y, Kobayashi Y, Naoe T, Emi N.: Phase 2 study of arsenic trioxide followed by autologous hematopoietic cell transplantation for relapsed acute promyelocytic leukemia. Blood 121: 3095-3102, 2013.

2. Panzer S, Engelbrecht S, Cole-Sinclair MF, Wood EM, Wendel S, Biagini S, Zhu Z, Lefrère JJ, Andreu G, Zunino T, Cabaud JJ, Rouger P, Garraud O, Janetzko K, Müller-Steinhardt M, van der Burg P, Brand A, Agarwal P, Triyono T, Gharehbaghian A, Manny N, Zelig O, Takeshita A, Yonemura Y, Fujihara H, Nolle KE, Ohto H, Han KS, Nadarajan VS, Berlin G, Sandler SG, Strauss RG, Reesink HW. : Education in transfusion medicine for medical students and doctors. Vox Sang. 104 (3): 250-272, 2013.

インパクトファクターの小計 [ 13.557 ]

## (2-1) 論文形式のプロシーディングズ

## (2-2) レター

## (3) 総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 竹下明裕 : 妊娠と血液疾患 妊娠と急性白血病, 血液内科, 65(6), 765-768, 2012.

2. 竹下明裕 : 再発・難治 APL に対する GO monotherapy. 血液内科, 65(3), 394-400, 2012.

3. 古牧宏啓, 竹下明裕 : MDS (骨髄異形成症候群) MDS (診断の手順臨床検査), 56(12), 1325-1335, 2012.

4. 竹下明裕 : 白血病治療の最前線-EBM の先にあるもの APL の治療戦略. カレントセラピー 30(10), 1028-1033, 2012.

5. 古牧宏啓, 竹下明裕, 竹下香 : Pelger-Huët anomaly. 好中球の異常 好中球機能異常症. 白血球 (顆粒球) の異常 (悪性腫瘍を除く), 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ, 22 (2), 61-63, 2012.

6. 古牧宏啓, 竹下明裕, 竹下香 : May-Hegglin anomaly. 好中球の異常 好中球機能異常症. 白血球 (顆粒球) の異常 (悪性腫瘍を除く), 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ, 22 (2), 64-67, 2012.

7. 竹下明裕, 古牧宏啓, 竹下香 : Alder-Reilly-anomaly. 好中球の異常 好中球機能異常症. 白血球 (顆粒球) の異常 (悪性腫瘍を除く). 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ, 22 (2), 68-70,

2012.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 深津有佑, 竹下明裕, 竹下香 : Chédiak-Steinbrink-Higashi 症候群. 好中球の異常 好中球機能異常症. 白血球（顆粒球）の異常（悪性腫瘍を除く）, 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ, 22 (2), 71 -73, 2012.
2. 永田泰之, 竹下明裕 : 一過性骨髄異常増殖症. 類白血病反応. 好中球機能異常症. 白血球（顆粒球）の異常（悪性腫瘍を除く）, 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ, 22 (2), 18 -21, 2012.
3. 永田泰之, 竹下明裕 : 一過性骨髄異常増殖症. 類白血病反応. 好中球機能異常症. 白血球（顆粒球）の異常（悪性腫瘍を除く）, 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ, 22 (2)・13 -17, 2012.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

#### 4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 24 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(280 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	( 0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	( 0 万円)
(4) 財団助成金	2 件	( 54 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	( 0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	6 件	(250 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

改良型核酸染色による生がん幹細胞の分離と分子生物学的特性の網羅的解析法の確立

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

1. 竹下明裕 (代表者) 共同研究

新規サイトカインレセプター解析手法の開発

中外製薬株式会社、H23～H26, 9 万円

2. 竹下明裕 (代表者) 共同研究

特定遺伝子発現を指標とする腫瘍細胞の分離とがんの予後的診断への応用

浜松ホトニクス株式会社、H22～H25, 45 万円

(5) 受託研究または共同研究

#### 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	3 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	9 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 1) 国際学会・会議等の開催

- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

1. Fujihara H, Yamada C, Watanabe H, Kaneko M, Shibata H, Furumaki H, Nagai S, Ishizuka K, Takeshita A : Decrease of underreporting by a computed information technology based in-hospital haemovigilance system. The 2012 AABB Annual Meeting. Boston Convention & Exhibition Center, Boston, MA, USA. 2012.10.6. Transfusion 52(2): 174A・2012.

### (2) 国内学会の開催・参加

#### 1) 主催した学会名

- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名

1. 竹下明裕 第 59 回日本臨床検査医学会学術集会
2. 竹下明裕 第 60 回日本輸血細胞治療学会東海支部例会
3. 竹下明裕 第 74 回日本血液学会総会

### (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 竹下明裕 日本血液学会（代議員）
2. 竹下明裕 日本造血細胞移植学会（代議員）
3. 竹下明裕 日本臨床検査医学会（評議員）
4. 竹下明裕 日本内科学会東海支部（評議員）
5. 竹下明裕 日本輸血細胞治療学会  
（評議員、効果安全性委員会委員、国際共同研究委員、輸血認定看護師試験委員、東海地区理事）
6. 竹下明裕 日本成人白血病研究グループ（幹事、急性前骨髄球性白血病プロトコール委員長）
7. 竹下明裕 日本臨床腫瘍学会（評議員）
8. 藤原晴美 日本輸血細胞治療学会東海支部（評議員）

9. 藤原晴美 日本輸血細胞治療学会 (評議員)

## 8 学術雑誌の編集への貢献 (国内の英文雑誌以外を書く欄が無い場合「等」を追加)

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	2 件	1 件

### (1) 国内の英文雑誌等の編集

1. 竹下明裕 International Journal of Hematology (日本血液学会) Editorial Board IF 有
2. 竹下明裕 Journal of Clinical Experimental Hematology (日本リンパ網内系学会) Editorial Board IF 有

### (2) 外国の学術雑誌の編集

1. 竹下明裕 ISRN (International Scholarly Research Network) Hematology (USA) Editorial Board IF 有

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Int J Hematol 14 回 (日本)
2. Leukemia 2 回 (米国)
3. Hematology J 3 回 (英国)
4. 日本輸血細胞治療学会誌 2 回 (日本)
5. 臨床血液 1 回 (日本)
6. ISRN Hematology 5 回 (米国)

## 9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	2 件
(3) 学内共同研究	0 件

### (1) 国際共同研究

1. Allo-immunity to Antigen Diversity in Asian Populations (アジアにおけるアロ免疫に関する共同研究)、台湾 韓国 インド マレーシア シンガポール タイ、2008 年～継続、資料の交換を Web を介して行っている。

### (2) 国内共同研究

1. 竹下明裕 急性前骨髄球性白血病に対する亜ヒ酸、GO を用いた寛解後治療 第 II 相臨床試験 JALSG APL212 (日本成人白血病研究グループ)
2. 竹下明裕 65 歳以上の急性前骨髄球性白血病に対する ATO による地固め療法 第 II 相臨床試験 JALSG APL212-G (日本成人白血病研究グループ)

### (3) 学内共同研究

## 10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 赤血球不規則抗体アジア共同研究

赤血球不規則抗体は輸血や母子間免疫が関係する。これまで、輸血に関しては政治や経済力、測定技術の差異もあり、国際間の共同研究は行われてこなかった。2007 年度より、アジア地区の共同研究として本研究をスタートした。これまでに 100 万例超の患者登録があり、今年度も継続していく。また日韓の登録例はこのうち 80%を占め、両者の差異も明らかになりつつある。

(竹下明裕)

### 2. 急性前骨髄球性白血病の国内共同前方向研究

急性前骨髄急性白血病(APL)は分子標的療法が最も進んだ白血病である。All-trans retinoic acid (ATRA)、arsenic trioxide (ATO)、gemtuzumab ozogamicin (GO)、Am80 の 4 つの分子標的剤を使用し、従来の化学療法の有害事象と予後の改善を狙った。16 才以上 65 才未満の APL212 と 65 才以上の APL212G からなり、現在、登録が進んでいる。(竹下明裕)

### 3. 希釈性凝固障害に対するクリオプレシピターとフィブリノーゲン製剤の有用性

大量出血に対する輸血後には希釈性凝固障害が引き起こされる。この際、凝固因子特にフィブリノーゲン製剤の有効性に関して報告が散見される。本院では学内 IRB を取得後、クリオプレシピターとフィブリノーゲン製剤をそれぞれ 21 例、5 例の症例に対して使用し、きわめて有用な結果を得ている。この結果を第 60 回、61 回輸血細胞治療学会総会と 2013 年国際輸血学会 (ISBT) で発表した。さらに症例を重ね、検討中である。(竹下明裕)

## 13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

## 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

## 15 新聞、雑誌等による報道